

## 体育学教育における情報教育のガイドライン

### 【到達目標 1】

身体に関する基本的な構造と機能の理解やライフサイクルの中で運動やスポーツに関する問題の発見と解決のためにICTを活用できる。

### 【到達度】

- 身体や身体運動の測定と測定値のデータベース化ができる。
- 考察するために適正なデータベースにアクセスして、過去の知見を検索できる。
- 収集したデータの分析と、そのために必要な統計処理ができる。
- 分析結果（中間まとめ）を多様なICTを用いて効果的にプレゼンテーションできる。

### 【教育内容・教育方法】

- は、目的に応じて測定し、その測定値を表計算ソフトウェアやデータベースソフトウェアを用いてデータベース化する。
- は、ICTを用いてデータベースにアクセスする。
- は、データを必要に応じて統計処理し、分析する。
- は、プレゼンテーションソフトウェアなどを用いて情報発信する。

### 【到達度確認の測定手段】

- ～ は、教育・学修支援システムなどにより、レポート、テスト、発表などで確認する。

### 【到達目標 2】

運動能力や競技力を高めるためのツールとして、また、スポーツと社会との関わりをマネジメントするためにICTを活用できる。

### 【到達度】

- 分析されたデータと照らし合わせ、運動観察をすることができる。
- 競技力向上に関わるデータの測定と統計・分析ができる。
- スポーツの振興と普及に向けた調査・統計・分析にICTを活用できる。
- 分析結果から、ICTを活用して運動やスポーツの企画・立案・実行ができる。

### 【教育内容・教育方法】

- は、運動観察し、分析データとともに運動についてディスカッションする。
- は、競技力向上を目的とした測定、測定されたデータの統計処理及び分析をおこなう。
- は、スポーツ振興と普及を目的に、調査方法の策定、調査、それによって得られたデータの統計処理及び分析をおこなう。
- は、ITなどを用いて、運動やスポーツの企画と立案し、さらに実践する。

### 【到達度確認の測定手段】

- は、教員、および学生間のディスカッションや相互評価によって確認する。
- ～ は、教育・学修支援システムなどにより、レポート、テスト、発表などで確認する。